第３回 北海道林業・木材産業新型コロナウイルス対策に関する連絡会議 概要

【開催日時】 令和２年８月４日（火）
【開催方法】 オンライン会議
【出席者】 11 団体・企業
【開催結果】

議案１ 現在の影響及び今後の見通しについて

【直近の情勢の変化】

（主な意見）

- 流通サイドが在庫を減らしており、建築材の需要が落ち込んでいると見られる。
- 梱包・パレット材は既に４割程度落ちているが、９月以降になれば少し動くと予想している。
- サンギは、２割～3 割の減。
- ラミナは完全に止まっており、公共向けの大断面集成材向けラミナを除き、戻らないことが懸念される。
- 製紙が大幅減産しており、国内チップの消費量がいずれの樹種も大幅減となる見込み。
- 製紙工場向けのアンケート調査では、既に 1/3 の企業が雇用調整助成金の手続きを検討している。
- 需要が回復しないと、今後、伐採が本格化する時期になっても原木を買うことができない。
- 林業事業体向けのアンケートでは、６割以上が影響を受けていると回答。

【道の試算に関して】

（主な意見）

- 概ね試算と同様の傾向にある。
- 輸入材や道外材の動向にも影響を受ける可能性がある。
- 製材だけでなく、合板等を含めた木材産業全体の影響を考えることも必要。

議案２ 道の対応状況及び今後の方向性について

【対応方向の検討】

（主な意見）

＜需要喚起対策＞

- 道産材の需要喚起に向け、住宅に関してテコ入れが必要。
- 道産材が輸入材に置き換わる動きが多発している。道産材を使ってもらえるような仕組み（木チェン）が必要。
- 即効性がある出口対策が必要。原木が動かないことには今後の森林整備にも影響が出る。
- 道外向けは杉や外材とのバランスの問題がある。道内消費という形での支援が望ましい

＜原木保管＞

- 安定供給には、中間土場に溜めてから送る体制が必要。
- 原木をストックしておかないと、需要が回復した時に対応できない可能性がある。

＜道有林＞

- 原料の確保・素材生産業の事業維持という観点からも道有林の立木販売の入札を行っていただきたい。

＜金融対策＞

- 長期化した時に信用不安に繋がる可能性がある。中小零細企業だけで生き残っていくのは難しいことから、資本注入の検討を要望する。
- 利子補給等が終わった時に有利子負債が増えてくるので、資金繰りに影響が出てくることを懸念。

（まとめ）

- 森林整備を継続的に行い、原料供給を確保していくことが必要。
- 山側の作業を継続しつつ、回復時の供給を確保するため、原木の保管を確実に行うことが必要。
- 製品の出口を確保するため、住宅など需要喚起に取り組んでいくことが必要。
- 需要者のニーズに合わせた品質や供給体制の確保に業界として取り組んでいくことが必要。
- 借入金の増大によって返済が滞る懸念があり、金融対策について要望をすべき。